前期月間7000トン

和光金属

大手非鉄金属原料問屋の和光金属（本社＝神奈川県愛甲郡、村上竜吉社長）は、スクラップの集荷量を伸ばしている。2013年6月期の月間平均取扱量は約7000㌧と、前期から2割程度増えた。内訳は銅系2000㌧、アルミ系1000㌧、雑品3000㌧、電線や他品種が1000㌧など。銅系スクラップを中心に増えた。

短期集中発生対応も

ただ、「発生量の振れ幅が非常に大きくなる傾向がある」（村上社長）という。前期は集荷量が1万㌧を超える月も複数あった一方、5000㌧程度まで減った月もあった。海外銅相場をはじめ各種非鉄金属や為替相場が乱高下し、「相場上昇の山を待って一気に売り込んでくる」（同）集荷業者が多いためだ。村上社長はこれを「ゲリラ豪雨」に例え、局所的、短期集中的な発生に「気候変動」していると指摘する。

現在はスクラップの発生が品種にかかわらず慢性的に少なく、また円安により海外流出が進んでいる。国内集荷業者の取扱量は明らかな減少傾向にあり、利益を確保するため各業者は在庫を放出するタイミングにシビアに需要家との間で値決めを行っている。このため、高値時にまとめて集荷した玉を平均化した価格で販売せざるを得ず、原料問屋が相場リスクを負う形になってしまう傾向にある。

このため同社では、集荷時に相場をヘッジすることで対応。市中からまとまった量の発生があった場合も、低リスクで集荷できる体益率も改善する傾向にあるという。

また、原料の品質を高めることで、需要家の信頼を得ることにも注力している。「品質管理を徹底して行い、メーカーの各工場で使いやすい形にそれぞれ対応するよう心がける」（村上社長）ことで、需要不振時にもメーカーに選ばれる原料の提供を目指す。

「アルミ原料需給一層タイト化も」

橋本アルミ
橋本健一郎取締役

「アルミスクラップ需給は輸出や足元の発生不足により、今後さらにタイト感が強まる能性がある」。そう話すのは非鉄原料問屋・橋本アルミ（本社＝大阪市住之江区）の橋本健一郎取締役。

「7月の自動車生産台数が半分に縮小するなど、同分野で需要回復の兆しが見られる。また、中国の景気後退懸念も、ここ最近の経済指標から判断すると収束してきており、今後は自動車や住宅、輸出の3本柱が本格的に回復するとみられ、アルミ原料需要をけん引するだろう」との見解を示す。

ロンドン金属取引所（LME）アルミ相場の見通しについては、「米国によるシリアの軍事介入と金融緩和の縮小時期の2点に大きく左右される。シリア問題が台頭している限り、産業用金属であるアルミは軍事介入が明らかにマイナス材料となる。2点の問題がなければ高値はトン1870ドル。一方、軍事介入などが実行されれば最悪の場合、1700ドルを割る」と話す。

銅スクラップ需給は、「自動車関連の市況回復に加え、住宅着工戸数が11カ月連続プラスを記録している点から、今後さらに引き締まる。LME銅相場は、シリア情勢次第では下値6700ドル。上値は軍事介入が回避されれば、前月後半につけた高値付近の7350ドルとなる。建値はキロ680－750円程度を予想する」。（栄）

「投機買い」目立つ

入札価格高止まり続く

使用済みアルミ缶

9月に入っても、市中価格の先行指標になる使用済みアルミ缶（UBC）の入札価格は、キロ140円台で高止まりが続いている。一部自治体では150円近くの高値が付くなど、足元の需給以上に、「投機的な買い」（スクラップ商社）の面が強まっているようだ。

さいたま市が9日に行った10月－来年3月（6カ月間）渡し入札は、大宮区で148・8円の高値を付けた。スクラップ商社は、「輸出向けとみられる。来年以降の先高も見据え、落札したのではないか」と指摘する。約70－80㌧と、ある程度まとまった量が手に入ることが魅力に映ったもよう。

岩槻区は141円。岩槻は大宮よりも量が少ない20－30㌧であるため、この価格水準での落札にとどまったとみられる。浦和区も141円。東京の板橋区が9日に行った10－12月渡しは、アルミ缶のみの入札が140・5円だった。

「まとまった量を先に確保できる」（関東の原料問屋）ことが入札の利点。輸出向けを視野に入れるのであれば、「ある程度の量が確保できる自治体の入札では、今後も140円台の高値を付ける可能性はある」（スクラップ商社）との見通しだ。

その一方で、複数の関東原料問屋からは、「140円台のUBCは高い」との声が聞かれる。「メーカーの製品価格が上がりにくくなってきている今、UBCの買値を140円台後半に上げてまで買ってくるだろうか」（同）。

実際、大宮の落札価格148・8円であれば、利益を出すためには150円以上で売らなければならない。つまり、落札した業者は、すでに150円台になることを見据えているといえる。

メーカーからの引き合いや輸出向けが堅調な中では、入札価格の高止まりは続く見通し。ただ、「高値での波乱含み」（スクラップ商社）はありそうだ。

合金メーカー購入平均価格

（本社調べ、キロ当たり円、問屋置き場現金）

	7月下旬	8月下旬	9月12日
▽新切れ	175	178	173～178
▽63S	175	178	173～178
▽一品合金	162	165	160～165
▽印刷板	177	180	175～180
▽ベースメタル	210	210	205～210
▽機械鋳物	146	149	146～151
▽合金新	148	151	146～151
▽合金削り粉	124	127	124～129
▽缶プレス（A）	135	138	135～140

合金削り粉は引き合いが強く強基調で推移。ベースメタルも無い物高が定着し、原料不足が深刻なことから、一段高の様相を呈している。

安の222円どこ　問屋に玉が入り難くなっている。

金曜特集：リサイクル総合ニュース